

(別記様式)

令和3年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様な組織的な教育活動を個に応じた展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>本校は「人間力ある人づくり」を目指して教育活動に取り組んできた。令和2年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、多くの学校行事を中止、または延期せざるを得ない状況となった。そんな中、可能な限り本来の教育活動を進めるべく教職員、生徒が一丸となって、前年度の成果と課題に取り組みながら、また、コロナ禍における新たな試みを模索しながら、教育活動を前進させることができた。多くの生徒は、限られた教育活動に積極的に取り組み、学力の向上だけでなく、自主性、克己心など人間力の育成に成果を現わすことができた。</p> <p>1 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導や遅刻の根絶等、基本的生活習慣の確立に向けた指導の下、一定の成果は見られた。今後も、学校生活全体のあらゆる機会を通して、教職員の一致協力の元、粘り強い指導を行い、生き生きと充実した高校生活の充実を目指し、帰属意識の定着をより一層図る必要がある。</p> <p>2 進路指導・学習指導について 進路決定状況は、就職においては、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、国公立大学合格者、私立大学合格者共に、令和元年度から大きな変化は見られなかった。近年の傾向では、早期に進路決定するのではなく、自分の可能性を信じて、推薦入試・一般入試まで最後まで諦めさせない姿勢を指導してきた成果であり、今後もこの粘り強い指導を続けていきたい。一方で、学習指導について、日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、途中、意欲をなくす生徒も一部出てきており、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。今後も、より細やかな指導が求められる。</p>	<p>1 自他を大切にする人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活を送れるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。</p> <p>2 生徒の希望進路の実現を第一に、入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力の向上を図る。進学・就職ともに強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を減少させる指導を徹底する。</p> <p>3 部活動の加入率の増加を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図り生徒の「人間力の育成」を図るとともに生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。</p> <p>4 全校体制でICT活用の研究を進め、魅力ある授業を展開し、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進させ確かな学力を育む。</p> <p>5 地域と連携し、地域創生に寄与する取組を推進する。地域の高校としての存在感を高め、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生の醸成を目指す。</p> <p>6 本校の特色ある教育活動について工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し、正しく、広く理解していただくとともに、保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p>

	<p>3 部活指導等本校への帰属意識向上 陸上競技部や機械工作部に代表されるように、全国・近畿で活躍する生徒が毎年でてきているものの、部活動加入率は減少傾向にある。様々な機会を使い部活動の意義について理解させ、高校生活の充実を図り、学校生活の満足度のさらなる向上を目指す必要がある。</p> <p>4 地域連携・広報等について 京田辺市と連携協力に関する協定を生かし、工業に関する専門学科と地元企業との連携事業を、リモートなどのICTを活用し実施した。残念ながら、実際に現場に出向いての体験等は実施できなかったが、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、中学校の進路学習会に出向き参加するなど、本校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を継続して実施した。今後さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に選ばれる学校づくりを進めていきたい。</p>	<p>7 上記の項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>
--	--	--

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。 適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。	A	B	<p>年度当初は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等に係る対応を、学校ごとに判断しなければならない機会が多かったが、部長会議で各分掌部長を中心に連絡・調整を行い、大過なく学校運営を進めることができた。中盤以降は、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続しながら、教職員一丸となって、感染症対策と教育活動の両立に努めた。</p> <p>勤務時間管理については、ノー残業デーの設定や、勤務時間把握ソフトによる、月ごとの個人残業時間の告知などにより啓発を行った。</p> <p>地域・地元企業連携については、昨年度までに構築されてきたものを、工業科全体のものとして推し進めた。今後は、生徒の3年間を見据えた綿密な計画のもとで活動を充実させていくことが課題である。広報活動については、新型コロナウイルス感染症の影響で、本校の教育活動を広報する機会の縮小を余儀なくされたが、少ない機会を活かし、工夫を凝らして実施することができた。</p>
		普通科・工業に関する専門学科の特色化の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携をより一層推進する。また、本校の特色ある教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。	B	B	
事 務 部	教育環境の整備	学校設備・備品の充実	教員との連携を十分に取りながら、各種事業の取組において効果的な予算執行を行い、質の高い教育環境づくりをめざす。	A	A	<p>工業科のデジタル産振、長寿命化工事において、教員と十分な連携を取ることで、理解を得、スムーズな予算執行ができています。</p> <p>生徒の授業料および就学支援金等については、個人情報を取り扱う関係上、保護者・生徒に対しては、細心の注意を払い業務を行っている。また、奨学金等、支援事業の案内ついて、教室掲示等を行い周知を図つ</p>
		生徒の就・修学支援の充実	各種支援制度について、保護者・生徒に対する丁寧な案内と対応を心がけ、授業料や諸費等の徴収事務及び各種奨学金事務を円滑に実施する。	B	B	
			学校HPの活用や、教室内や廊下等の掲示板を活用し、保護者に向けての就・修学支援情報	B		

			の十分な周知を図る。			ているが、もう少し全保護者・生徒に周知できるような工夫を考える必要がある。
--	--	--	------------	--	--	---------------------------------------

教務部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。 公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 指導と一体化した評価についての検討を進める。 今後の教育課程について検討を進める。	B B C B	B	B	コロナ禍において、可能な限り授業・考査の円滑な実施を心がけ、行事計画・校時の変更や調整を行った。 新学習指導要領に関わる教育課程について、検討を行った。特に評価等について、今後も継続して検討を行う必要がある。 校務システムの運営により、教職員の負担軽減は図りながら、適切な情報管理を行うことができた。
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、成績処理及び個人成績票発送の適切な管理を図る。	B	B		
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。	C	C	B	身だしなみの指導については改善の余地がある。また、授業規律についても指導が多く、改善の余地がある。また、各分掌には、連絡が遅れて迷惑をかけることも多かった。文化祭が中止となったが、分掌の協力もあり学年ごとの体育祭を実施。生徒からも、久々の学校行事に満足の声があった。生徒会活動として、支援学校との交流や地域清掃活動などのボランティアも実施できた。各学年団にも協力いただき、制限もある中、学習やアンケートを実施できた。
			生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。(授業中の携帯電話使用を減らす)	C			
			各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。	C			
	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。 部活動を活性化させる。 生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	B B B	B		
人権学習	人権意識の高揚及び実践的態度の育成と人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。	B	B			
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。進学補講・長期休業中の補講を積極的に実施する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年との連携を密にし、進路ガイダンスや進路説明会を行うことで卒業後の進路に繋げる指導を行うことができた。 ・通常の進学補講及び長期休業中の集中補講を場所や内容を工夫することで実施することができた。 ・就職については1次応募以降、内定者を増やしたが、12月末時点であと数名が未決定であるため、引き続き指導を行っていく。
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業と連携を密にし、就職指導の充実を図る。	B			
			昨年度に引き続き就職内定率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう、指導の内容については、見直すべきものは改善・整理していく。	B			
	保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、保護者説明会を行い、進路実現に向けて保護者との共通理解を図ることができた。 		

教育推進部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や学校公開、施設見学等を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣の解除後、感染対策を徹底配慮し、第2・3回学校説明会、個別相談会を実施した。 ・ホームページを検査し、更新がされていないページの修正・訂正を行い、ほとんど項目の改善ができた。 ・府教委や大学の研究会を活用する等、広く先生方の協力を得て取組を進めることができた。次年度からの教育活動を見通し、さらに検討・推進する。 	
			ホームページ等を有効に利用し、その活用体制を整えるとともに、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。	B			
	ICT教育	ICT教育の推進	令和4年度からのIpadを活用した教育活動の推進を図るため、教材研究や授業研究の実施並びに外部講師等による講習会の実施等の企画・計画など、マネージメント行う。	B	B		
	読書活動	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行う。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に新しい図書の選定、配架、購入に努めている。また今年度は新たな取り組みとして図書委員会に「選書班」を設け、生徒の意見を選書に取り入れた。 ・図書館だよりを定期的に発行し、情報発信を行った。 ・生徒が図書館を利用しやすくなるように、見出しの作成や配架方法の変更を行った。次年度も改善を継続する。 ・一昨年度の計画が延期になり、本年度は実施することができた。次年度の演目についても検討を進め、実施準備を進めている。
			新着図書や思考・読書のきっかけになる本について効果的な情報発信・広報を行う。	A			
			図書館が生徒のニーズに応じて機能できるような環境作りに努める。	B			
		視聴覚機器の整備	視聴覚機器を適切に管理する。	A	A		
	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞に関心をもって参加できるよう、事前の取組を工夫する。	B	A		
			プログラムの打ち合わせ等を十分に行い、生徒の心に残る内容にする。	A			
			次年度の演目について検討し、適切な時期に決定する。	A			

保健部	健康安全 教育の 推進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。	A	A	健康診断については、校内での検診は全て完了し、精密検査が必要な生徒について受診の指示をしているところである。SCIについては、今年度は50時間の追加配当があり、生徒のみならず、教員や保護者の不安軽減に向けての相談活動を実施することが出来ている。特別支援教育会議では、生徒の、心身の健康上への配慮について適切に協議することが出来た。しかし、学習支援や学校生活を送る上での支援等については、さらに充実させる必要がある。 校内美化については、クリーンキャンペーン等を中心に全校体制で取り組むことが出来ているが、ゴミの分別やポイ捨てについては不十分なところもある。	
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A			
			特別支援教育会議を定期的に関催し、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。	B			
	校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように掃除道具の整備・補充を行う。	A	A			
		クリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。	A				
		ゴミの分別推進、ポイ捨ての防止への啓発を促進する。	B				
工業部	工業教育 の充実と 発展	各科、ICTを用いて専門科目の学習内容の充実の検討と、各種資格・検定等の取得率向上、事業所や大学等において、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	教育内容の精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について具体的な検討を進める。今年度配備される機器の取り扱い方や実験モデルなど講習を計画し、立案する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> デジタル産振で購入予定のものが納入されていないので、研修の目的が立たない。機器の納入後設定する予定である。 インターンシップは、中止としたが、その代わり京田辺市と連携し、企業交流会や工場見学等が実施できた。 資格、検定試験の多様化により、少人数での講習が増え、実施する教員の人数が不足してきた。今後は、4学科まとめて実施を検討したい。 	
			資格取得や検定の合格に向け、講習会等におけるより効果的な指導方法を検討すると共に、計画的に実施する。また、各種競技会に向けた指導の充実とその体制を整備する。	A			
			事業所や大学等における、インターンシップ並びに見学会などを企画・立案・実施する。	B			B
			事業所や大学等の技術者や研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	B			

第1学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備 学習態度の育成 進路実現に向けた目標の設定 基礎学力の育成	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。	A	A	B	スタディープログラムを行い、苦手教科の取り組み方や進路実現に向けての面談に役立った。普通科は適学適職診断を行った。生徒にも好評で自己分析に役立ったという生徒が多かった。指導件数38件中17件が1年の事象である。それ以外でも生徒同士のトラブルなどが起きているが、対応が早く解決するのに時間はかかっていない。各行事への参加も積極的である。それぞれ活躍できる場面を作っていくことで、生徒が学校生活に前向きに取り組めると感じた。
			進路指導部と連携をとりながら、生徒、保護者と面談を密に行い、目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	A			
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度の育成	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。 委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	C	B		
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	A			
第2学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備、学習態度の育成 基礎学力の育成 進路実現に向けた目標の設定	各教科、教科担当者との連携を図り、学習環境の整備のために、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。	C	C	C	学年で情報を共有し、欠席や遅刻をした生徒に対して、家庭連絡や声かけを徹底することができた。家庭からも理解を得て、良好な関係を築くことができた。引き続き家庭との連絡を密に取り、丁寧な指導をしていきたい。 本年度（12月末時点）23名／13件 昨年度19名／13件 前年比指導件数は±0%で目標に達することはできなかったがきめ細かい指導を通じて各生徒の規範意識は高まり、改善が見られた。 遅刻過多の生徒や配慮の必要な生徒に対して各担当が実態を把握し保健部などと連携をとり対応を行っている。今後も家庭への連携を密に行い丁寧な対応をしていく。
			進路指導部と連携をとりながら、生徒・保護者と面談を密に行い、目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	C			
	生徒指導 特別活動	規則を守り、自主自律の態度を育成する	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う前年比の指導件数10%減を目指す。 委員会活動、学校行事等の役割及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	C	B		
		学校行事（研修旅行・学校祭等）に参加しやすい環境をつくり生徒に手厚い指導を行う	面談等を実施し、その状況を共有し、学年全体で取り組む対応を進めていく。	B			
		配慮を要する生徒への支援に取り組む	具体的な支援方法を模索・構築し、率先して対応する。 関係分掌・機関との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B			

第3学年部	進路指導 学習指導	主体性のある学習態度を育成する	日常の学習の重要性を認識させ、学習時間を向上させる。	B	B	<p>進路実現に向け、学習の重要性を理解させ指導を行った。</p> <p>学習環境の整備においては、ある程度の情報共有等を行っているが、大きな成果はでなかった。</p> <p>個に応じた進路指導を行い、また、進路指導部と連携し、進路実現に向けて取り組んだ。</p> <p>指導件数は、1月末段階で9件と昨年度より大きく減少した。</p> <p>研修旅行は実施できなかったが、1泊2日の校外活動を実施した。しかしながら、コロナや進路関連で不参加生徒が多数でた。</p> <p>合理的配慮の必要な生徒に対しては、適切な指導を行い、その結果、進路実現のために意欲的に取り組む態度が見られた。</p>
			学習環境の整備のために、教科担当者との連携を図り情報を共有する。それに基づいた生徒への対応と家庭との連絡を行う。	B		
		希望進路を実現させ、社会人として必要な力を身につけさせる。	個人面談、進路ガイダンス、保護者説明会などにより生徒及び保護者との連携を密にし、適正な進路指導を行う。	B		
	生徒指導	規則を守るとともに、自主・自立の態度を育成する。	規則遵守のため一致した指導・対応を教員が行い、指導件数の減少を目指す。	B		
		研修旅行など、学校行事に参加しにくい生徒に手厚い指導を行う。	面談等を実施し、その状況を共有し、学年全体で取り組む対応を進めていく。	C		
	特別活動	配慮を要する生徒への支援に取り組む。	合理的かつ公平性を保ち、関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密にする。	B		

評価

A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価基準と広報活動、地域連携について 工業に関する専門学科の学習内容や活動内容は非常に興味深く、もっと高評価をつけても良い。工業科、普通科にかかわらず、本校にしかできない学校活動を、もっと中学生やその保護者にアピールするなど田辺高校の魅力発信が、今まで同様、今後も大きな課題であると感じられる。地元商工会や京田辺市役所との連携事業においては、今までの関係性をより広げること成功し、組織（学校）と組織（市役所、商工会）の関係を築けたことは大きな前進である。また、京田辺市における自治体と地元高校との関係性は、工業科の連携事業だけでなく、部活動員による地域清掃などを含め地域創生の面では高評価できるものであり、他の地域に向けて、実績として情報発信できるものである。
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領に関わる教育課程、特に評価については今後も継続的・重点的に検討を進める。 ○ 身だしなみ指導、授業規律においては、改善の余地があり、学校全体のものとして計画的に進めていく。 ○ 自他を大切にする人権感覚の育成、及び規範意識の確立に重点を置いた教育活動を継続し、全ての生徒が安心・安全に高校生活を送れる教育環境の整備を更に進める。 ○ 学校行事や部活動の活性化を更に推進する。生徒主体の取組をとおして豊かな人間性を育むとともに、帰属意識や生徒間のつながりの意識を涵養する。 ○ 生徒の希望進路実現のため、入学から卒業までを体系的に捉えた一貫した指導を行い、進学・就職ともに強い進路指導体制の更なる充実を図る。 ○ 本校の特色ある教育活動について、保護者、中学生、及び地域等に広く、正しく理解してもらうための広報活動を更に積極的に展開し、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。また、京田辺市との連携を軸とし、地域の声を教育活動に反映させた取組や、高校生のアイデアや発想を京田辺市に活かす地域創生につながる取組を行う。 ○ 令和4年度タブレット導入後の教育活動を見据え、授業におけるICT活用の更なる研究を推進する。また学習指導、及び評価の方法についても研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現につなげるとともに、確かな学力を身に付けさせる。
--------------------------------	---